



▲ミュージックエンタ終了後、出演者全員で撮影



荒木伸二さん



岡田麻未さん



前谷邦治さん



坂口靖子さん



藤元竜二朗さん

実行委員会(J.J.)のメンバー。現在はこの5人で活動中



▲毎週火曜日に荒木さん宅に集まり約3時間練習。

第20回ミュージックエンタ

とき 8月18日(日)
開演13時(会場12時30分)
終演17時予定
ところ 庄原市ふれあいセンター
(コパリホール)

※入場無料、出入り自由
※マナーを守って観覧すること

子どもたちが成長する 社会教育の場

ミュージックエンタの出演条件は厳しい。その厳しさとは「当たり前のことをする」ということ。実行委員長の藤元竜二朗さんは「バンドに対して良いイメージを持ってもらうには、行動で示す以外にない」と強調する。まずはあいさつすること。「あいさつは基本。気持ちいいステージは気持ちいいあいさつから始まる。これができる

なければ出演はお断りする」。そのほかにも出演中はゴミを散らかさない、ゴミが出たときは持ち帰る、イベント終了後はみんなで片付ける、会場周辺を清掃する、校則や法律に反することは絶対にしないなど。それは出演者だけでなく、ライブを見に来た友人や家族にも求めた。たばこを吸ったり、髪を染めたりしている者がいたときにはその場で注意し、すぐに帰らせた。最初の頃は注意することが度々あったが、「今では注意することはほとんどなくなり、会場周辺にゴミが落ちていたりもほとんどない」と胸を張る。回を重ねるごとに、その思いが子どもたちに伝わっている。保護者の信頼にもつながっている。「子どもの演奏を聴きに來る親も増え、孫の活躍を一目見ようと足を運んでくるおじいちゃんおばあちゃんの姿も多くなった」とメンバーの声も弾む。今は

子どもたちを預かっているという責任と重みを感じている。目標は20回目を成功させること。ミュージックエンタは平成18年11月に第1回目を開催。昨年12月に開催した第19回までに出演したバンド数は延べ175バンド、出演者数は延べ685人に上る。荒木さんは「20回と言っても1回1回を積み重ねた結果ではない」と言う。しかし、出演者のほうが特別な思い入れを持っている者もいる。過去の出演者の中には、インディーズで活躍している者も。今回その卒業生から出演させてほしいと依頼があった。「全国で活躍しているのに、こういう形で声をかけてくれたことが本当にうれしい。彼らが出演してくれ

と気持ち高ぶらせている。実行委員会のメンバーもJ.J.としてミュージックエンタに出演する。「一緒にステージに立つと子どもたちの成長を感じる。僕たちも負けていられない」。子どもたちから刺激を受け、練習にも力が入っている。「楽しそうに演奏している姿や上達する姿を見るところうれしい。今回もどれだけのものを見せてくれるか楽しみに」と気持ちを高ぶらせている。



中高生の『笑顔』と歴史を積み重ねて20回

ミュージックエンタ



エンタ君

音楽と勉強の両立を目指し、勤勉の象徴である二宮金次郎像をモチーフにして作られたロゴ

中学生・高校生のための音楽舞台『ミュージックエンタ』。8月18日の開催で20回の節目を迎える。これまでの活動と歩み、思いなどを関係者に聞いた。

中学生・高校生が輝ける場所を作りたい

平成13年8月、市内の音楽好き9人が集まり庄原よいとこパレードに参加した。「市内でバンドの生演奏ができる場所はあれくらいだった」と当時からのメンバー荒木伸二さんはこう振り返る。そのときのメンバーが中心となりバンドチームJ.J.を結成した。

活動を続ける中で聞いたのが、「ライブイベントに出たいが、自分たちが出られるような敷居の低いライブがない」という声だった。ライブイベントに出演することはお金がかかる。当時はバンドをする人は怖いという見方をされやすく、「実際に怖いイメージを持たれる大人の存在もあった」と荒木さん。マイナスイメージを変えたいと強く思っていたメンバーは「自分たちが出たいと思うライブを庄原に作ろう」と心に決めた。

ふと、ライブイベントに出られないグループに目を向けてみると、中学生バンドが多いことに気付いた。「大学生であれば自分たちでライブ会場を探ることができる場所を作ってやりたい」。J.J.のメンバーは実行委員会を立ち上げた。ミュージックエンタはここからスタートを切った。

思う」と喜ぶ。

今回は、できるだけ多くのバンドに参加してもらいたい、いつもより申し込み期限を延ばした。そのため、いつもなら7月上旬には完成しているポスターの完成が、半月以上遅れた。藤元さんは「それだけミュージックエンタを楽しみにしてくれているということ。バンドをしたいと思う中高生が1人でもいる限りエンタを続けていきたい」と誓う。